

## 今月のことば

恩は  
返せるもの  
ではない  
返すもの  
でもない  
ただ  
ただくのみ

(小池秀章)

龍谷大学非常勤講師  
小池秀章 こいけひであき

私たちは、多くのご恩(めぐみ・慈しみ)の中で、生きています。にも関わらず、普段は忘れてしまっているのではないのでしょうか。そして、時として、大きなご恩を感じた時、何か「恩返し」をしなければと思うこともあるでしょう。しかし、本当に「恩返し」をすることは、出来るのでしょうか。ご恩が大きければ大きいほど、そのご恩を返すことが出来ないことに、気づかされます。

ある時、「恩送り」という言葉に出会いました。「ご恩を返すことは難しい。けれど、ご恩が返せないことを悲しむ必要はない。受けたご恩は、その人に返すのではなく、別の人に送ってあげばいい」というのです。この考え方もいいなと感じました。

ただ、気をつけなければならぬことは、「恩返し」にしても、「恩送り」にしても、返したら終わり、送ったら終わり、というようなものではない、ということなのです。つまり、ご恩は、「これだけのものを与えてもらったから、それに見合うものを返して(または送って)、+(プラス) - (マイナス)、0 (ゼロ)にする」というようなものではないのです。

結局、ご恩は、ただ、ただくのみ。出来ることがあるとすれば、そのご恩を無駄にしないということだけでしょう。

小山法城氏は、「ご恩報謝とは 恩を返すことではなく、ご恩を無駄にせぬことである」という言葉を残されています。

ご恩をかみしめる中で、自分の人生が問われてくるように、感じています。

合掌